

## 米の消費に関する動向

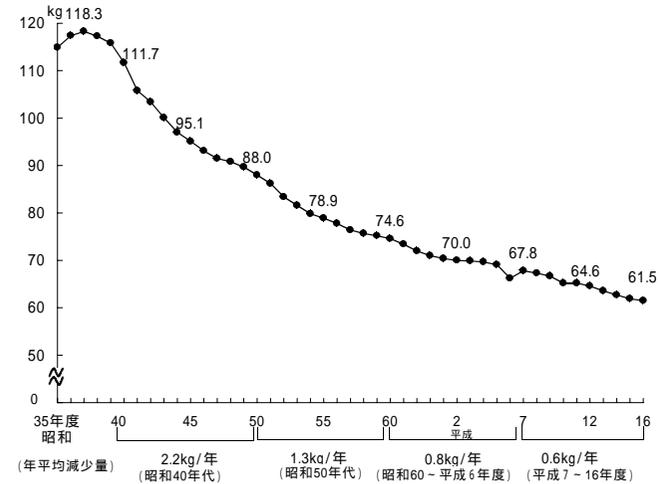
### 1 米の消費量の動向

米の消費量は、長期的には一貫して減少している中で、平成17年になって下げ幅が縮小していく兆しもみられたが、最近再び1%前後の減少となっている

米の消費量は長期的には一貫して減少傾向にあり、近年は引き続き、年率1%程度の水準での減少が続いています(図 - 1)。

最近の動きをみると、米の1人1ヵ月当たりの消費量が、平成17年1月から5月までは対前年同月を上回る月もあり、下げ幅が縮小していく兆しが見受けられましたが、17年6月以降は再び対前年同月比で1%前後の減少となっています(表 - 1)。

図 - 1 米の消費量の推移(1人1年当たり)



資料：農林水産省「食料需給表」

- 注：1) 1人当たり供給純食料の値である。  
2) 16年度の値は概算値である。

表 - 1 米の1人1ヵ月当たり消費量

(単位：精米グラム・%)

	全世帯		消費世帯		生産世帯	
	対前年比		対前年比		対前年比	
平成10年度	5,200	0.9	5,051	0.7	6,655	1.5
11年度	5,142	1.1	4,999	1.0	6,596	0.9
12年度	5,147	0.1	5,020	0.4	6,487	1.7
13年度	5,062	1.7	4,948	1.4	6,318	2.6
14年度	5,007	1.1	4,895	1.1	6,294	0.4
15年度	4,961	0.9	4,850	0.9	6,283	0.2
16年度	4,913	1.0	4,814	0.7	6,158	2.0
17年1月	5,202	0.0	5,087	0.2	6,646	1.0
2月	4,682	1.3	4,587	1.5	5,880	1.2
3月	4,976	0.1	4,881	0.2	6,161	1.4
4月	4,923	0.1	4,824	0.0	6,209	1.3
5月	4,974	0.0	4,874	0.1	6,273	1.6
6月	4,741	1.5	4,640	1.7	6,037	0.9
7月	4,713	0.8	4,609	1.1	6,051	2.1
8月	4,849	0.7	4,749	0.8	6,130	0.6
9月	4,738	0.9	4,632	1.0	6,101	0.7
10月	4,940	0.5	4,840	0.6	6,237	1.9
11月	4,874	0.7	4,779	0.7	6,105	0.8
12月	5,054	0.9	4,923	1.1	6,743	1.1
18年1月	5,138	1.2	5,018	1.4	6,678	0.5

資料：農林水産省「米の消費動向等調査」

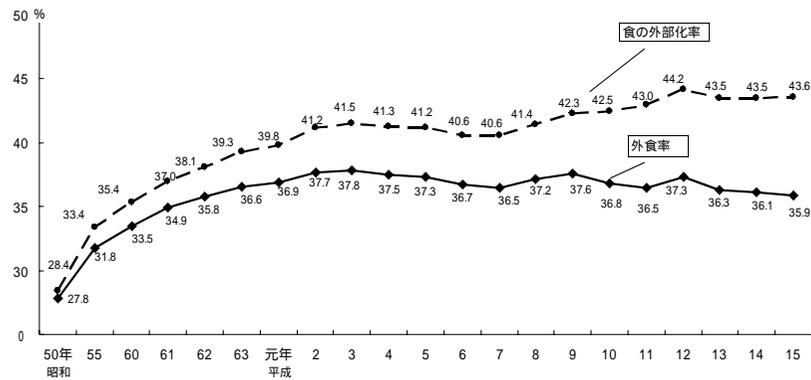
注：全国8,340の無作為抽出した調査客体による標本調査で、毎月の自計申告による値である。

## 2 米消費をめぐる動き

### (1) 米の消費形態の推移

前頁でみたように、米の消費は全体的には減少しています。しかしながら、消費者の簡便化指向を背景に進展した食の外部化に伴い、外食・中食等に使用される米の割合は増加傾向で推移しています(図 - 2)。

### (参考) 食の外部化率



資料：内閣府「国民経済計算」、(財)外食産業総合調査研究センター「外食産業市場規模」、(社)日本たばこ協会調べの輸入品を含むたばこ販売額

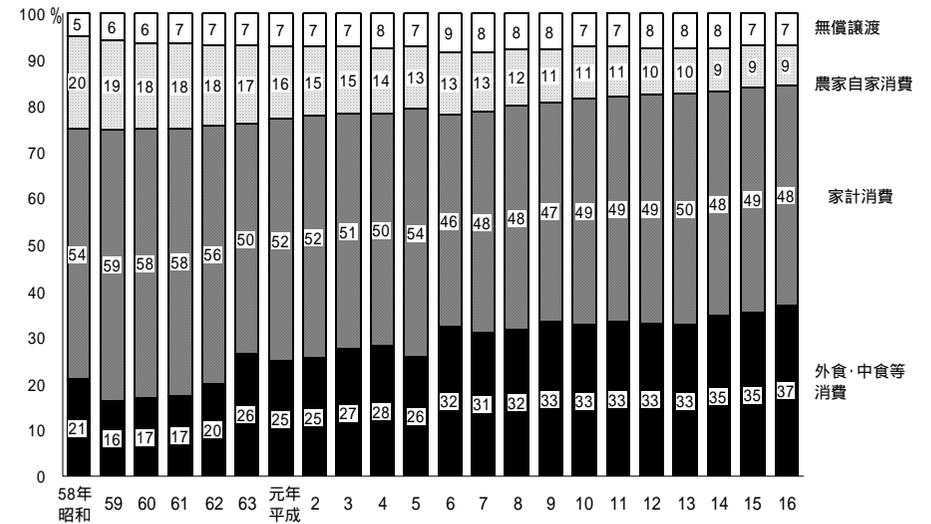
注：1) 外食率とは食料消費支出に占める外食の割合のことである。

外食率 = 外食産業市場規模 / ((家計の食料・飲料・煙草支出 - 煙草販売額) + 外食産業市場規模)

2) 外部化率とは食料消費支出に占める外食と総菜・調理食品の割合である。

外部化率 = 外食産業市場規模 + 料理品小売業 / ((家計の食料・飲料・煙草支出 - 煙草販売額) + 外食産業市場規模)

図 - 2 主食用米需要量に占める外食・中食等の比率



資料：総務省「家計調査」、農林水産省「食料需給表」「生産者の米穀現在高等調査」

注：1) 外食・中食等の値は供給量(食料需給表の供給純食料(主食用)を玄米換算した値)から家計消費量、農家自家消費量、無償譲渡数量を差し引いた量の全体に対する割合であり、加工米飯等に使用される米も含まれる。

2) 家計消費量は、家計調査の世帯当たり購入数量を世帯人員で除し、各年の日本人口で引き伸ばした値である。

3) 農家自家消費量は、「生産者の米穀現在高等調査」(飯用消費分)のうるち・もちの合計値である。

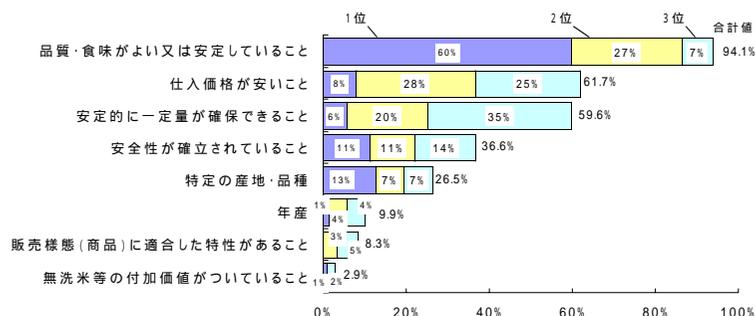
4) 無償譲渡数量は、「生産者の米穀現在高等調査」のうるち・もちの合計値である。

## (2) 外食事業者等の米の仕入れ動向

農林水産省が、17年5月に実施した「外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート調査結果」によれば、外食事業者等が米を仕入れる際の判断基準として、「品質・食味」、「仕入れ価格の安さ」、「一定量の確保」の3つを重視していることがわかります。また、安全性や産地・品種についてのこだわりもみられます(図-3)。

外食事業者等が仕入れている米について、さらに詳しく見てみると、価格については、300円/kg～350円/kgを選択している業者が46%と最も多く、15年産米の不作の影響がみられた16年5月調査と比較して全体的に仕入れ価格が低下している様子が見られます(図-4)。

図-3 外食事業者等における米を仕入れる際の判断基準(上位3項目)

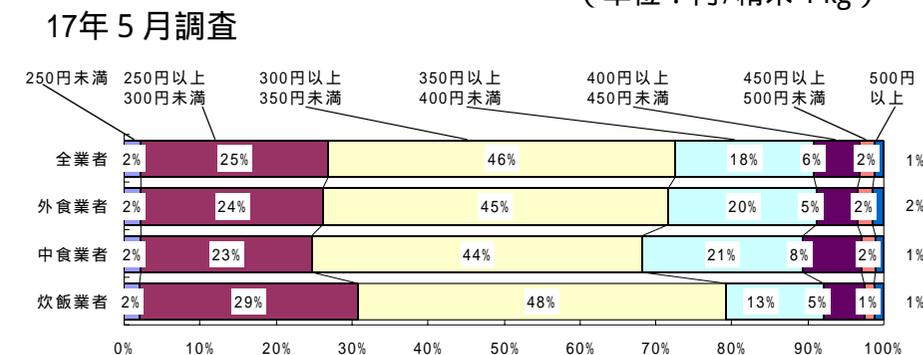


資料：農林水産省「外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート調査結果」(平成17年5月調査)

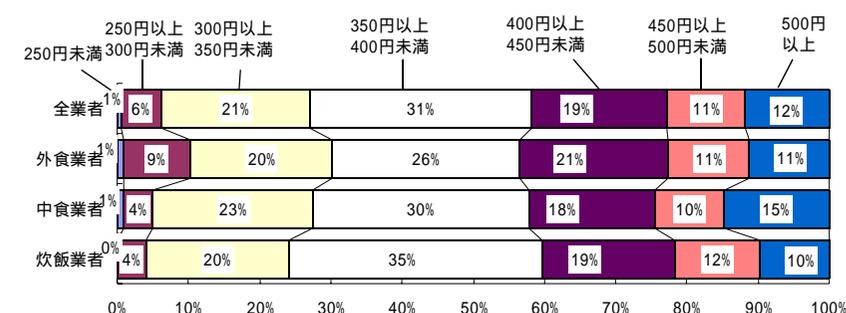
注：1) 外食事業者等(外食事業者、中食製造業者及び炊飯事業者)443業者を対象とするアンケート調査である。調査客体は、全国展開を行っており全国団体に加盟している(米の購入量が年間120精米トン以上、炊飯事業者においては年間炊飯量が500トン以上)事業者及び各都道府県において米年間使用量が多い外食事業者等である。

2) 複数回答(上位3項目)の調査結果である。

図-4 外食事業者等が購入する価格帯(単一銘柄米)(単位:円/精米1kg)



16年5月調査



資料：農林水産省「外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート調査結果」(平成17年5月調査及び16年5月調査)

注：1) 図1-3注1)と同じ。

2) 外食事業者等の仕入れ価格は、調査期間の精米1kg当たり聞き取り価格(消費税込み)である。

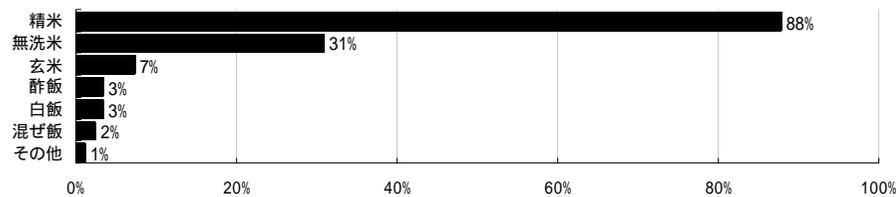
3) 平均価格は、業態別仕入れ価格の単純平均である。

また、仕入れている米の種類についてみると、精米を主に仕入れている業者が88%、無洗米が31%、玄米が7%となっています（図 - 5）。

各種類ごとに半年前と比較した仕入れ動向についてみると、無洗米の仕入れについては、「増えている」と答えた業者が「減っている」と答えた業者の倍以上、精米や玄米においてはほぼ同水準となっています（図 - 6）。今後半年の見通しについても、無洗米については「増えていく」と答えた業者は3割を超え、これから増加させていこうとする様子が見られます。

外食事業者等の米の仕入先については、16年12月調査と比較すると、生産者・農業生産法人（2.7% 3.4%）、農協等の集出荷団体（10.1% 10.5%）の割合が引き続き増加しています（図 - 7）。

図 - 5 仕入れている米の種類（複数回答）

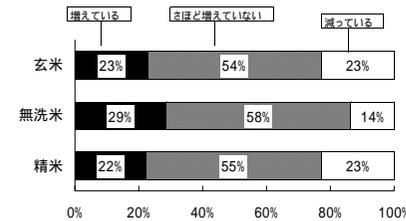


資料：農林水産省「外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート調査結果」（平成17年5月調査）

注：図 - 3注1）と同じ。

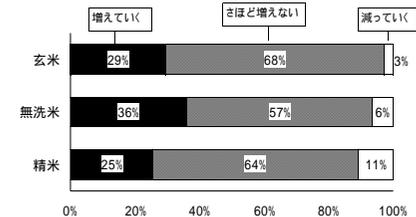
図 - 6 仕入数量の増減

半年前との比較



半年後の見通し

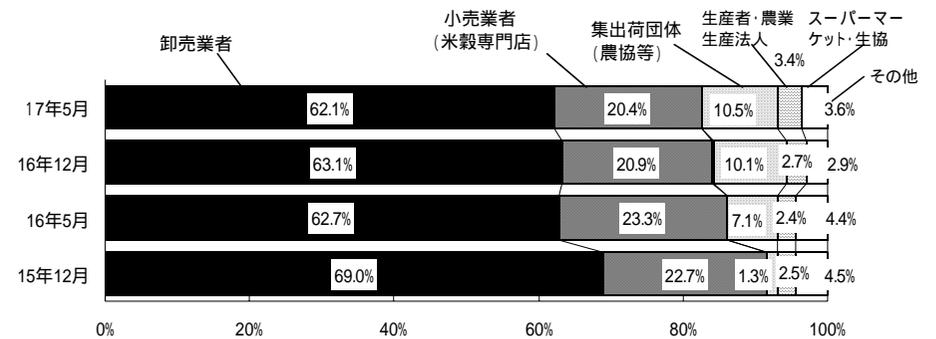
（単位：%）



資料：農林水産省「外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート調査結果」（平成17年5月調査）

注：図 - 3注1）と同じ。

図 - 7 外食事業者等における米の仕入れ先



資料：農林水産省「外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート調査結果」（平成17年5月調査）

注：図 - 3注1）と同じ。